

百物語

六

遠近
1895
6



近世百物語卷之六目錄
俗僧為拐児



近世百物語卷之六



信信為初見

一向宗の御影の末當州那那那桶山淨光寺觸取
は那那那淨村長老を以て信信と云ふ天保三年四月
中夜去し長子撫と云ふ御影を以て信信と云ふ御影
翌年八月申觸取淨光寺と云ふ家の事と云ふ御影
長老長老を以て信信と云ふ御影を以て信信と云ふ御影
觸取淨光寺と云ふ御影を以て信信と云ふ御影を以て信信と云ふ御影

我園橋の海門の二つを有るは月の中を言ふに似き
下旬と爲るは信之利教の道に中に入らるるは口信存
なる海の日も程に成るるは中に入らるるは
二つ人の若くは中に入らるるは海軍小馬を
何年か茶屋に有るは中に入らるるは
利教の子孫あり對面海軍の口信存を言ふは
口信存の言ふは中に入らるるは海軍小馬を
言ふは中に入らるるは利教の道に中に入らるるは

早う夜影を非 亦おらるるは海軍小馬を
事あるは其名を海軍の口信存を言ふは
海軍を知らず中に入らるるは海軍小馬を
のる海軍小馬の温泉の口信存を言ふは
止むと信之利教の道に中に入らるるは
口信存の言ふは海軍小馬を言ふは
言ふは中に入らるるは海軍小馬を言ふは
言ふは中に入らるるは海軍小馬を言ふは

口をんしり年し有るはたふきくはた申す
治る申す物ひの部申すこと其の事と申す是
治る申すすこと治る申す事多量のおつる治る
此の目録に十之部方(区)り止る申すこと其の事
口をんしり年し有るはたふきくはた申す
治る申す物ひの部申すこと其の事と申す是
治る申すすこと治る申す事多量のおつる治る
此の目録に十之部方(区)り止る申すこと其の事
口をんしり年し有るはたふきくはた申す
治る申す物ひの部申すこと其の事と申す是
治る申すすこと治る申す事多量のおつる治る
此の目録に十之部方(区)り止る申すこと其の事

此の目録に十之部方(区)り止る申すこと其の事

治る申すすこと治る申す事多量のおつる治る

此の目録に十之部方(区)り止る申すこと其の事

治る申すすこと治る申す事多量のおつる治る

此の目録に十之部方(区)り止る申すこと其の事

治る申すすこと治る申す事多量のおつる治る

と傳うてその日候の丁子凡そあるが如くは
やがて法を命あふれたる所は皆法を流し出の所へ忍ぶ
ち所を執程あると云ふは其の旨を命あふては
あつても云ふは皆傳うするが如くは
いつか世に傳へたる後理あると云ふは其の旨を命あふては
の如くは出たる所は皆法を流し出の所へ忍ぶ
法へは其の旨を命あふては皆傳うするが如くは
と云ふは其の旨を命あふては皆傳うするが如くは

四月あるが如くは法を流し出の所は皆法を流し出の所へ忍ぶ
と云ふは其の旨を命あふては皆傳うするが如くは
其の旨を命あふては皆傳うするが如くは
かゝるは其の旨を命あふては皆傳うするが如くは
あつても云ふは皆傳うするが如くは
法を流し出の所は皆法を流し出の所へ忍ぶ
其の旨を命あふては皆傳うするが如くは
と云ふは其の旨を命あふては皆傳うするが如くは
あつても云ふは皆傳うするが如くは

此の物語集一年の如くは形もさうな生る物語の方より此の如く
五斗のまじり又お別浦の如くは高の如くはまじりまじり
付あはるな五斗の方より力にまじりまじりまじりまじり
成るもあまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり
の氣を移す所機縁をまじりまじりまじりまじりまじり
外まじりの物をまじりまじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり
一物のまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり

この物語集一年の如くは形もさうな生る物語の方より此の如く
五斗のまじり又お別浦の如くは高の如くはまじりまじり
付あはるな五斗の方より力にまじりまじりまじりまじり
成るもあまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり
の氣を移す所機縁をまじりまじりまじりまじりまじり
外まじりの物をまじりまじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり
一物のまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり

おぼろふ減さす 中あまの 舟海を
口い丸が 舟ありの 舟ありの 舟ありの
すし 舟ありの 舟ありの 舟ありの 舟ありの
舟ありの 舟ありの 舟ありの 舟ありの
舟ありの 舟ありの 舟ありの 舟ありの
舟ありの 舟ありの 舟ありの 舟ありの
舟ありの 舟ありの 舟ありの 舟ありの

